

# 市長室：対話の記録

## 要旨

## 開催内容の公開

### 対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第22回目となる今回は、市内の台場、西神居、忠和地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

18人の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成19年12月20日(木) 午後6時30分～午後8時00分
場所	旭川市忠和地区センター 大ホール(旭川市忠和5条5丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(18人)

## 対話の内容

※参加者はアルファベット(A～H)で表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

### 市長あいさつ

みなさん、こんばんは。

日ごろから大変いろいろとまちづくりや地域づくりにお力添えをいただいております。ありがとうございます。この場をお借りしまして改めてお礼を申し上げます。また、今日は雪の中、また寒い中、夕食の時間帯ぐらいかなと思いますが、この対話集会にお越しをいただきましてありがとうございます。限られた時間ではありますが、ぜひお話をいただいて、また意見交換をさせていただき、これからの旭川の行政や地域づくりの中で、みなさま方のご意見を反映させていくことができればなと思っています。

市長に就任させていただいて1年と少しになりますが、これまでこの対話集会を地域の方ですとかいろいろな団体の方々で22回開催させていただいております。今回はこの忠和地区、台場地区、西神居地区のみみなさま方にお声を掛けさせていただいてお集まりをいただきました。こちらの地域は札幌方面から国道で入って来られた時にちょうど玄関口になるという国道12号線が通っている地域でございます。向こうから順番に申し上げますと神居古潭、石狩川の景勝地が広がっておりますし、また忠和地区には商店街、ショッピングセンターなども広がっておりますし、また東海大学や忠和公園もあり、住宅街も忠和地区、そして神居地区へと広がっている地域でもあります。また台場の方はスキー場

があったりですか、墓地もありますし、果樹園などもございます。また、一部そちらの方の地域は学校の統廃合といった問題、過疎化の問題も一部あるというような、そういった地域だと思いますが、非常に住みやすい、そしてまた自然あふれる地域だと思っております。

実は昨日から東京に行っていて、先ほど旭川に戻ってきたばかりなのですが、東京はやはり非常に暖かくて、向こうの人はそれほど暑くはないのでしょうけれども、建物の中に入ると非常に汗が噴き出るような感じで、非常に暑く感じてきました。北海道に帰ってきたら、寒いなという感じで戻ってきました。実は今回、今朝の新聞にも大きく出ていたようですが、中華航空という台湾の航空会社に行きまして、先月、台湾の方に行ってきた折に、定期便を旭川空港と台北の間で飛ばしてもらいたいと、前市長の頃からずっと要望してきていたのですが、向こうの会社の会長さんたちが非常に前向きなご意見をいただくことができたということで、今日は東京の支社や国土交通省、官庁関係にもお願いをしてきました。まだいろいろと詰めていかなければならない話はあるのですが、何とかこの定期便を実現したいという思いで今日は行ってまいりました。



今、動物園が非常に好調で、3百万人の来園者があるということです。観光客は4百万人くらいだったのですが、今は動物園分の3百万人が上乗せされ、7百万人の観光客の方に来ていただいております。その中には台湾の方もたくさんいらっしゃるんですね。今、定期便は飛んでいないのですが、台湾と旭川空港の間のチャーター便が年間数十便きており、2日に一度くらいは台湾の飛行機が旭川に来ているという状況です。またその他にもご存じのように、韓国のソウルとアジアナ航空さんが週4便の定期便を飛ばしております。韓国の方もたくさん来ております。そういった意味で、私たちの旭川というまちも観光都市としての一つ大きな夢が膨らんできているのかなという期待を持っているところでございます。しかし、その一方で景気の問題ですが、雇用という部分については旭川に限らず北海道は、関東など大都市圏に比べると非常に厳しい現状にあり、やはり観光は観光で大切なのですが、地域の基幹産業であります農業ですとか、また食品加工業、食品関係の中小企業が実は旭川にはたくさんございまして、私もこの辺りをこれからの旭川の基幹産業の柱に何とか育てていくことができればというような思いで、今いろいろな取組をさせていただいております。私の公約の一つであります「食品加工研究所」という施設、建物をつくるのが目的ではなくて、既存の施設が市にもありますが、これらを有機的に結びつけていくそのプラットフォーム、駅の停車場のような役割を果たすような研究所というイメージを持ってございまして、農家の方とか農協の方とか食品関係の方、そして作ったものを売り出していくための流通・販売が非常に重要でありますので、全国のスーパーマーケット、流通関係の方、こういったところをどういうふうにつなげて、旭川の地場産の農作物ですとか、またここで作った食品を全国、また世界にいかにか売り出していくかということを非常に重要視して今後の取組にさせていただきたいという思いで、今いろいろと検討させていただいているところでございます。

旭川は家具、木工という部分で大変有名なまちで、私が小学校の時、社会科の教科書に旭川はパルプと家具というのが産業として紹介されていたことを今でも覚えております。こちら時代の変化と共にそれぞれ皆さん企業努力を重ねながらやってきておりますけれども、厳しい現状が続いているという面もございまして。そのような中で、これも今朝の新聞に出ていきましたが、工業団地に新しく家具屋さんが進出していただけることになりました。「アルフレックス」というイタリアの家具メーカーの日本法人なのですが、今地域の家具業界のトップリーダーとして頑張っている株式会社カンディハウスさんと連携して、ここを家具の集積地にしていきたいというような思いで進出をして来ていただいたようでございます。当面は昔の小林木工さんの跡地、建物が空いておりますので、そこで営業していただけるということで、約30名の雇用を見込んでおりますが、ここが順調に軌道

に乗れば、今全国に展開しているアルフレックスの様々な業務をこの旭川に集約していくことができるといふような思いを持っていただいているようでございます。私ども地域の雇用に繋げて行けたらなという思いでありますので、しっかりとアンテナを高く張りながらいろいろな情報をキャッチするということも大変重要でありますので、企業誘致とかそういったことにもさらに力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

また、今、市民のみなさまが一番頭を悩ましていらっしゃるのが、灯油の高騰でございます。今、100円近く、場合によっては100円を超えている所もあるのかもしれませんが。またガソリンが150円ということですが、私が大学生であった20年くらい前は確かリッター38円だったと思いますので、その頃と比べると約3倍になっています。これから1月、2月と旭川、北海道は大変寒くなってきます。ここは私ども本当に心配をしているところでございます。家計に直接響くというのはもちろんですが、それ以外にも例えばビニールハウスを使っている農家の方ですとか、冬場ボイラーを炊いているいろいろな公共施設、会社ですとか、またガソリン、軽油を使って走っている運送会社の皆さん、あらゆるところに今大変な影響が出てきているという状況ですが、政府同士、中東ですとかアメリカのいわゆるメジャーと呼ばれる石油資本の様々な力関係で、今このような灯油高、原油高になっているのですが、私どもとしては一日も早く正常な額に落ち着いてもらいたいということを政府に望まなければいけないと思っております。また、市としてももっともいろいろな方に助成をさせていただきなのですが、福祉灯油ということで非課税世帯限定ですが、非課税の方で75歳以上の高齢者の方、また重度の障害者の方、児童扶養手当をもらっている母子家庭の方に対して、5千円ではあります、福祉灯油として年明けから申請していただいた方に助成させていただくという準備をしております、来週の金曜日に臨時議会を開きまして、そこで約8千万円の市の単独支出になるのですが、補正予算を提案させていただき議決を得ることができれば、来年1月以降ですけれども、市民の皆さんに利用していただきたいなと思っております。今日その関係で総務省にも行ってきまして、市の財政も大変厳しいものですから、できるだけ多く国からの助成をいただきたいということを総務省に行ってお願いをしましりました。また、生活保護を受けている方々も大変厳しい状況にありますので、こちらの方に関しても厚生労働省に行って、冬場は大変なのでその辺りもご考慮いただきたいという話もしてきたのですが、国の財政状況も厳しいようですので、簡単に話が進むかどうか分からないのですが、今日お話しはしましりました。北海道の寒さというのは、経験した人でなければ東京の方々にはなかなか理解してもらえないかなと思っております。私ども一丸となって声を上げていかなければ、どんどん北海道が冷え込んでいってしまいますので、これもいろいろな方々と一緒になって頑張っていきたいと思っております。

また、先日終わりました第4回定例会では、機構改革について提案させていただき議決をいただいたので、来年の春に市役所の組織機構が変わる予定あります。今回の機構改革の柱として、子どもに関するの業務を一括してそこで執り行っていきますという「子育て支援部」という部をスタートいたします。この「子育て支援部」というのは今まで学校教育部ですとか保健福祉部ですとか保健所ですとかいろいろな所にまたがっていた業務を極力一括集中した部として、お母さん、お父さんの子育てと、子どもの教育という部分で学校としっかり連携を取って、子育てを支援させていただきたいという趣旨で設けさせていただきます。その他に「税務部」という部も新しく作らせていただいたりなど、いくつか変更している点もございます。また、市の財政が大変厳しい中、行政改革ということが常に自治体に問われており、旭川市におきましても行財政改革を今後とも進めていかなければならないという思いの中、これまでは企画財政部の中の行財政改革担当部長、行財政改革推進課があったのですが、今回「行財政改革部」という部として独立をいたしまして、私と常に連携を密にしていきながら、市の業務の効率化ですとか、また市職員の能力をもっともって発揮してもらえようような組織体制に向けての、例えばソフトの面での工夫ですとか、また財政運営ですとかをそこで旗を振ってやっていけるような組織を今考えております。このような機構改革を来年の春に行う予定もしております。

せっかくの機会ですので、今、市政の現状についてのお話をいろいろとさせていただきます。

ましたが、この対話集会でいろいろな地域、団体の方からご要望をいただいたものについて、もう既に行政の中で政策として事業としてスタートをさせていただいたものも多々ございます。対話集会の様子は市のホームページでも公開して、みなさま方に公表させていただいておりますが、必ずこの対話集会の後、庁内で意見交換、論議を行いまして、一つの形を作っていこうということのできるもの、今、調査研究している最中でその調査研究が済んだ時点で実行に移していきたいと思うもの、また若干多額の費用が掛かるような公園や道路、橋の整備のような部分については長期的な視点の中で地域の要望として私たちのまちの総合計画の中に盛り込ませていただいたりとか、そのような形で反映をさせていただいておりますので、ぜひ今日もこの地域のみなさま方からいろいろなご意見をいただくことができれば思っております。冒頭にあたりましてお礼も兼ねてごあいさつに代えさせていただきたいと思っております。皆さん今日はよろしくお願ひします。

### 参加者A

交通安全について以前から考えていたこととお話しします。

先日、市長も緊急メッセージを出されたり、北海道知事がメッセージを出しました。毎年、非常に交通事故が多いです。死亡事故だけでも多いのに、それ以外の事故も相当数あると思ひます。こういう状況はどういうわけか一向に変わっていません。警察におきまして、様々な団体におきまして大変な努力をした上でこういう状況であるということは、最近ではみんなの責任ではないかと自分自身で痛感しています。そこで今日、お願ひしたいのは、動物園の人気が非常に高まり、全国的にも世界的にも有名になっている旭川市において、メッセージだけではなく、交通安全に関して具体的に何らかの行動を起こせる部署を作っていただきたいと思ひしております。例えば「交通ルール守ろう塾」という名称にして、各地区センターや公民館などを拠点として、そこでボランティアでもけっこうですので、リーダーをおいて、地域ごとに交通安全に取り組んでいけるそういう施策をしてほしいと考えています。

動物園で有名になって、たくさんの方が訪れるようになった旭川市で、「旭川の交通はいいですね、安心して歩けますよね、安心して車運転できますよね」と言われるまちになってほしいと思ひますので、交通ルールを守ってみんなが幸せになりたいと願ひまして、交通安全に関する組織づくりをしていただきたいと思ひます。

### 市長

旭川市内、今年14名の方が交通事故で亡くなっています。新聞にも出ているように、旭川市を含めて北海道全道で昨年よりも死亡事故が増えております。3年前まではずっと交通事故死ワーストワンだったのですが、昨年と一昨年はワーストワンを返上しております。今年は今までのところワーストワンだったのですが、ここ1、2週間、交通事故が減ってきており、逆に愛知県が増えているので、警察ではこのまま何とかワーストワンを返上したいということでさらに取り組んでいくという話を、先日本部長さんもお話しされました。私どもとしてもメッセージだけ出せばいいというものでは当然ありませんので、今後いろいろな部分で活動して行かなければならないと思ひています。

市には交通安全対策課があり、交通安全協会や、地域の皆さんなどいろいろな連携をさせていただいておりますが、今、私どもも年明けの2月の議会で、旭川市の安心で安全に市民の皆さんが住んでいただくようなまちを一緒につくって行きましょうという条例を提案させていただきたいと思ひています。その中で今の市の交通安全対策課の活動がもっともっと素晴らしいものに発展して、また地域のいろいろな団体のみなさま方とともっと連携を密にして取り組んでいくことができないだろうかと考えております。

### 参加者B

一昨年前から忠和地区市民委員会会長、そして私の名前で市に対し陳情書を提出しております。交通事故の危険もありますので早急にやっていただきたいと思ひのですが、道道多度志線から忠和中学校に入る道路、忠和の体育館に隣接している所に一昨年前か

ら90戸規模の宅地が造成されています。現在30戸が完成済みであり、10戸くらいが入居されているようですが、ここに入居する道路が1本しかなく、今非常に混雑しており、またこの新興住宅地は完全な袋小路となっております。この道路は忠和清浄所に通じる専用道路として造ったと聞いておりますが、この道路の拡幅工事を早急に、来年度中には完成していただきたいと思っております。今年のお盆過ぎに測量は終わっているとは思いますが、来年度中に着工して来年度中に完成できるのかどうかお聞きしたい。

次に旧忠和清浄所についてです。これを解体する第2期工事が11月4日から始まりまして14日に終了しているそうです。また、その後第3期工事が2月29日まで行われるそうですが、この解体工事の完了がいつになるのか。来年度中に完了するのか、解体完了後にはその跡地の利用計画はあるのか教えていただきたいと思っております。

また、これに隣接しますパークゴルフ場についてですが、11月初めの北海道新聞に、各河川敷のパークゴルフ場が大変荒廃しているの、今後は地域に運営をお任せしたいという内容の記事が載っておりました。忠和公園の場合は河川敷ではございませんが、恐らくそれに類するものではないかと思っておりますので、もしこの管理運営を地域に任せるといったことになった場合、地域のどの組織または団体に任せるとするのか、また今2面18ホールしかないの、それをもう1面増やしていただいて、3面27ホールにさせていただくことが可能でしょうか。それからご存じのように、旭川には雪中パークゴルフ場は花咲町の総合体育館のところ3面あるのですが、せっかく忠和公園の所に空き地がたくさんありますので、自分たちで造成して遊びたいと思っているのです。果たして土地を貸与していただけるのかどうかご回答をお願いしたい。

#### 市長

道路拡幅工事の進捗状況について、今は分からないのですが、調べてまして後日ご連絡させていただく形で対応させていただきたいと思っております。確か今、道北振興さんで宅地造成しているところの話ですね。この部分の道路の整備状況と、忠和の清掃所の解体工事の件と、あとパークゴルフ場の件ですね。後日、ご連絡させていただきますので、今日の帰りに連絡先を担当にお伝えください。

#### 参加者C

安心安全のまちづくりについて、いわゆる地域防災計画について、旭川市にも防災計画という立派な計画がありますが、神戸や新潟のようにいつ起こるか分からない台風や地震などへの対応を地域としても計画化しておきたいと思っております。今もし災害が起きた場合、行政や私たち市民委員会がこの初期の対応を適切に行い、被害を最小限に食い止めるためには、やはり消防、市民委員会、防火クラブ、ボランティア、NPO法人との連携が必要です。近いうちに消防本部が18年に作成したハザードマップの説明会を各地域で開くというお話も聞いております。私も第7次総合計画の検討委員の一人として、いろいろと勉強させていただきました。忠和地区では東海大学、忠和小中学校、地区センターが避難所として指定されており、その他に避難地として忠和公園がありますが、これら避難場所や避難地の整備の問題、それからいろいろな体制づくりの問題があります。災害発生時の、地域として、また市民委員会としてはどうしたらいいのか全然分かりません。各市民委員会、各地域における防災計画はほとんど作られていないと思っております。物事が有機的に、実効的に機能するために計画は必要ではないかと思っております。また地域でも年1回ぐらい避難訓練を実施してほしいと思っております。

#### 市長

国の法律に基づき市も防災計画を策定し、北海道や関係機関と協議して公式な防災計画としてスタートさせていただいているところです。また防災センターが東光に来年10月に完成し、その時に防災課と消防指令がそこに移る予定です。その防災センターが旭川だけではなく、万が一何かあった時のこの圏域全部の防災の指令塔になります。その時には自衛隊、警察、行政など私どももそこに詰めることになると思っておりますが、その中で地

域としてのいろいろな役割についてが見えてこないというお話しかと思しますので、私も庁内に戻りましてから消防とも意見交換して、今後ともその部分でいろいろな知恵を絞っていきたいと思っております。

### 企画課主幹

率直な地域でのご心配を元にしたお話だと思しますので、本当の実態をざっくばらんにお話しさせていただきながら、今後役に立ていただければと思います。

この地域での防火クラブ、防火団体ですとか、あるいは町内会単位で自主防火組織というものを組織していただいているのですが、それがどのぐらいの数があるのか、おそらくそういったことがまだまだ不十分であって今のようなご指摘になっていると思いますが、はっきり申しまして、大災害になった時には消防だけでは何もできません。ご承知のとおり阪神・淡路大震災の時には、消防、警察、自衛隊で救助した数が2%、その他98%は地域の住民が自ら助けて合って難をしのいでいただいたというのが日本の実態です。しかし、この地域だから、あるいは事前にどうかしておけばその割合が変わるかという、どういった研究を重ねても、ちょっと難しい状況がはっきり分かっております。最後はお話しの中にもありましたような地域協働、住民の方々の協働が大切だと言うことで、地域の結びつきを今後もより強くしていただくような取組を当然強めていくようなことになると思います。本当に有事の時にどうやって逃げるのかという不安があるためにいろいろとご意見をいただくことになるとと思いますが、防災センターができることにより実は情報速度が全然変わってまいります。国が持っている情報を直接防災センターがいただくことができますので、避難勧告とか避難誘導がものすごく早めになります。洪水になってから避難勧告をすとか避難が始まるということではなくて、もうその予想が立った時には市長の判断をいただきながら、即市内にある全バスを忠和地区に向けて避難していただくとか、ですから本当の有事にはこの地域の避難場所へ逃げていただくというよりは、もっと安全な場所に逃げていただくというような、後手にならない方法手段を防災センターを軸にしながら取るというふうを考えています。いずれにしても地域での結びつき、歩行困難な人の手を互いに握りしめながら逃げていただく体制がないとそれも可能となりませんので、行政と何よりも地域住民の方との協働でそういうことができるとご理解いただいて、今後も積極的に進めていく対応を何とかご支援していただきたいと思っております。

### 参加者D

ごみステーションの問題につきまして、この地区は大学があるために学生が多く、また単身者も多くアパートがたくさんあります。アパートの方々、学生が多いせいかルールを守らない傾向が見受けられます。ごみステーションのある町内の方はいつもマナーの悪い人の後始末をさせられているのが現状です。私の家の前にもごみステーションがありますが、やはり誰か分かりませんが、夜中にごみを捨て、ネットをかけていきませんので、朝、猫やカラスが散らかしています。家の前ですから掃除をしなくてはなりません。アパートの住民は町内会に入っていない方多いですし、アパートを経営されている方は、やはり営利を目的として経営されていますので、ある意味では事業系の部類に入りますので、アパートから捨てられるごみが全部事業系ということではないですが、最低限アパートには専用のごみステーションを設置していただければ、このようなこともなくなると思います。

またアパートについてですが、新規のアパートやマンションを建てた時には、必ずごみステーションを設置するように建て主に市の方で指導していただきたい。あるいは広報を通じて、半強制的に設置していただくようにしていただきたい。既存のものについては、直接市の方から申し入れしてくれとは言いませんが、広報を通じてそういうことを促していただき、また町内会としてはそのアパートの持ち主に説明させていただいて設置していただくことをしたいと思っておりますので、ぜひ市の方で協力していただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。



## 市長

ごみの問題については、やはりどこの地域でも必ず出てくる話で、特にアパートに入居されている方のマナーが悪いというのはお聞きします。私たちもこれまで環境部が中心となり、ごみ捨て場にマナー違反のごみが置いてあると、職員が一応全部開けてみています。中身を見て個人が特定できればその人の家に行き、一応個別指導までしております。しかし開けても誰のごみか分からないごみもやはりありまして、なかなか接触できないということもあります。忠和地区は学生が多いということもあってお話しのようなご苦労もあるのかなと思います。各アパートにごみステーションを設置することについて、金属製のものとなるとけっこう高額なものですから、その設置を半強制的に義務づけるということについて、アパートのマンション組合ですとか、宅建協会の方々ですとかといろいろ話し合いをしていく中で進めていかなければいけないことだと思っておりますので、アパートの経営者の方々の集まりなど、そういう機会にもう少し意識してその辺の取組を深めていく、まずはそこからスタートしていきたいと思っております。またいろいろ気づかれることがありましたら、行政の方に言っていただきたいと思います。ごみステーションの設置場所を決めるのも町内の皆さんは大変苦勞されているのだらうなと思います。やはり自分の家のごみステーションはあってほしいと思います。町内によっては期間ごとに移したりといろいろ工夫されているようですけれども、その辺本当にご苦勞ご迷惑をお掛けしているとは思いますが、今後ともいろいろ考えていきたいと思っております。

## 参加者E

私の自宅前に市営住宅が11棟あり、そこに公園が2か所あります。公園のひとつには街灯が付いていますが、もうひとつの公園は夜街灯が消えています。近くの住人が夜カーテンを開けて寝ているのでそれをつけるとまぶしくて寝られないということらしいです。住宅課で、住民の方がそう言っているので公園の街灯はつけられないと言っていました。そこは夏にはそこに人が潜んでも分からないくらい木がたくさん生え、電柱に電気がついていますが、あまりに暗すぎてそこに人がいても分からないくらいです。道路が広いのに灯りがあまりにも小さく暗すぎると思います。これは私が体験したことなのですが、夜中に窓の下を見てみたら、フードを被っていた男の人を3回も見かけました。でも、さっと逃げて行ってしまい、街灯が暗いので全然どんな風貌も見えません。もう少し公園の木を切ったり、街灯を明るくしていただかないと、子どもたちの安全が守られないのではないかと思います。暗くなるのが早くなっていく季節だと夜帰りが遅い子にとって非常に危険です。何か事件が起きてからでは遅すぎますので、今の内に何か対策を考えていただきたいと思っております。

## 市長

わかりました。今いただいたお話しについてもう1回私どもも現状を確認して考えてみます。

## 参加者F

町内会館の改築に当たり、昨年10月に計画書を市に提出し補助をいただき、今年6月に完成することができました。また、町内のL字形の道路で内側の宅地に住宅が建ったために見通しが悪くなった場所があり、今年1月にカーブミラーをつけてほしいと市の方へお願いする際に、どこに行ったらいいか分からなかったのですが、広聴広報課の方で対応していただき、土木管理課の方へ話をしてくれたところ、9月にカーブミラーを1基つけていただくことができました。市の方には随分親切な対応をしていただきました。厚くお礼申し上げたいと思っております。

交通安全対策についてお願いがあります。私の町内は東海大学のすぐ足元で忠和1丁目と12号線の新道を挟んで2丁目となっており、この1丁目と2丁目の北は3条から南は7条まで、その南は台場の山にぶつかるといって町です。広さにすると約50ヘクタール近くで574世帯、約1,230人が住んでおります。

昨年12月に町内会で、新道のトンネル工事の現場を見学させていただきましたが、トンネルが完成するといよいよバイパスとしての機能が発揮され、交通量も増えると思います。旭川多度志線、4条通り線には信号が設置されておりますが、6条通り線は信号がなく、ちょうど5条通りの辺りから7条通りのトンネルに向かって、カーブとなっており、見通しが悪くなっております。工事が終わり、来年には供用開始されれば、いよいよ交通安全対策を行っていただかなければいけないのではないかと、昨年からは忠和地区の市民委員会を通じて要望しております。昨年の春、市からはトンネルの開通時の状況をよく確認して対応したいと市民委員会の方へお話しがあったということは聞いておりますが、今年の春に再要望ということで市道の6条通り線とバイパスの交差している所の安全対策について、道路が供用開始となった時には安心して道路を横断できるようにしていただきたいとお願いしておりますので、この件についてどうぞよろしく申し上げます。

### 市長

ご要望のありました6条通り線とバイパスの交差点の信号機の設置についてですが、私どもも市民委員会のみなさま方からいただいた信号機の設置に関して現場を確認させていただいて、その都度対応させていただいております。信号機設置の主体者というのは警察になっておりますので警察にも毎年要望しているのですが、市内に信号機の設置要望箇所が百箇所ぐらいはあり、なかなか設置されないというのが現状としてあります。年に数箇所の設置というような感じです。そういう現状はありますが、今お話しした箇所につきましては、今後トンネルが完成して交通の流れも変わるということにもなりますので、私どもとしては再度このあたりを重点的に警察に要望していくべきかどうかもう一度見極めながらやっていきたいと思っております。

### 参加者G

ごみの問題については全国的に永遠の課題だと思っています。それに加えて雪国に住んでいる者にとっては、雪対策も永遠の課題だと思っております。

ご存じのように、この忠和地区は旭川の中では豪雪地帯です。特に生活道路沿いに住んでいる方々が苦勞しています。やむを得ず、ほとんどの世帯で融雪槽を設置しています。市の貸付制度もありますので大変普及しております。地下水と水道水を使っている融雪槽があるのですが、特に水道水を使用して、温水で溶かしているという家庭がかなりあります。もちろんこれは下水道に行きませんから、下水道の料金はかかりません。水道事業会計は企業会計で独立していますから無理かもしれませんが、水道料金を何とか雪対策費でみてもらえないかと思っております。降雪が5センチ未満で除雪の入らない時には自分たちで生活道路の雪のほとんどを融雪槽に入れております。忠和も年々空き地がなくなっておりますから、ほとんど融雪槽を使わなければならないという状況です。ぜひ市内全体で水道水を使っている融雪槽がどのくらいあるのか、そしてその融雪槽使用にかかわる水道料金を免除した場合、年間どのくらいかかるものなのか調べて、さらにそれを雪対策費で捻出できないものなのでしょうか。ぜひ今後の課題として検討していただきたいと思っております。

### 市長

今のご意見について、庁内でそういう意見もありますということで検討させていただきます。私も他人の家庭が使っているのを見た程度で、直接使ったことはないですけども、融雪槽の水というのはけっこうな量を使うものなんですね。

### 生活交流部長

融雪槽の件ですが、市の方では住宅の敷地内に融雪施設等を設置する方に資金を貸し付ける制度はありますが、やはり灯油代も高くなったということもあり、なかなか借りる方も停滞気味というのが実態です。それと今いろいろな種類の融雪槽がありまして、地下水の散水式で全部流してしまうもの、それと水道でも溶かした雪の水をまた戻して循環



させるものというもありますので、今度新しく設置される方に対してはできるだけ負担の掛からないように、機械の説明や融資を受けられる条件などの説明をしていかなければならないと思っております。忠和地区は道路が昔の規格で狭い部分があり、空き地がなくなってきたり、それで雪が多くて生活道路がふさがりつつあるという状況もありますので、みなさんも地区の除雪センターにお話しされていることと思いますが、私どももできるだけ丁寧な除雪をするようセンターをお願いしておりますので、いろいろなそういう抜本的なことでもできるだけしていこうと思っておりますので、よろしく願います。

#### 参加者C

先ほども話がありましたが、忠和公園の横に住宅が90戸できるそうです。いわゆる新興住宅地区を造成中であります。一昨年、市の保健福祉部からこの地区の担当民生委員は誰なのかと、地域の民生委員協議会を通じて問い合わせがきました。市民委員会会長の私は全然承知しておりません。当然そこに1軒でも家が建つと福祉という部分で行政と関わりを持っていかなければならないと思っておりますが、大変苦勞して隣接の町内会と調整しまして民生委員を決定しました。新しい住宅地が造成されるということは市は分かるのですから、そういう情報を前もって保健福祉部から直接担当の地区民生委員協議会会長に来るのではなく、まずは市民委員会の方へ連絡してくれるとか情報を共有するような行動を取っていただきたいなと思っております。いわゆる地域全体のまちづくりを推進するため、また課題を解決するためには、行政との地域との情報の共有は当然必要なことと思っております。地域から行政に行ってお願ひすることは多いのですけれども、その反面行政からの情報の発信が少ないのではないかと思っております。

#### 市長

今後とも意識してしっかりとやっていきたいと思っております。

#### 参加者H

安否確認事業について、少し疑問に思ったことがあります。安否確認の対象者の中に町内会に加入していない方がいたということです。対応をどうしようかということで苦慮しましたがけれども、加入を勧めたら意外とあっさり加入してくれましたので、問題は起きなかったのですが、町内会に加入していただけない場合の対応について難しい部分があると思っております。町内会の人たちが町内会に加入していない人の面倒を見ることに対して、住民感情としてどうかという点がありますので、町内会に加入しているかないかの確認をしていただいて、加入していない場合にはぜひ加入してもらえよう働きかけをしていただきたいと思っております。

アパート・マンションのごみの問題ですが、建築確認申請が出た段階で、ごみステーションの設置の有無を確認していただき、無いものについては設置するように指導していただければ、ごみの問題は町内会から離れていくことになると思っております。できれば既存の施設についても設置の有無を確認して、無ければ設置を持ち主に勧めてもらいたいと思っております。

ある町内会の班長が市役所の職員で、その人から町内会から脱退したいという話がありました。やはり市役所の職員たる者が町内会活動に参加しないということは言語道断と私は思います。ですから職員調査票などに、町内会に加入しているかどうかという項目を設けて人事を行うなど、積極的に町内会活動に参加するように取り組んでもらえればと思います。

#### 市長

安否確認を行うにあたり、その対象者が町内会に加入している、していないという部分に対して、安否確認される方、またその周辺の方々の感情という部分でのお話かと思うのですが、今後、そういういったご意見も踏まえて、いろいろと工夫していきたいと思っております。

市職員の町内会未加入のお話しですが、私もいろいろなところでお聞きしており、広報誌の「市長随想」の中で町内会加入の呼びかけを書かせていただいたのですが、庁内においても、少なくとも市の職員のみなさんは町内会に加入しましょうと庁内の広報に私の方から出させてもらったのですが、残念ながら強制力がないものですから、あとはみなさんの意識と自覚に任せるしかないのですが、今、町内会への加入状況について、職員の中でアンケートを行っておりますので、その分析をした上でしかるべき必要な対策について知恵を絞っていきたいと考えております。

#### **市長終わりのあいさつ**

みなさん、今日は長い時間本当にありがとうございます。

地域の現状から市全体について、ごみや町内会についてのいろいろなお話をお聞かせいただきました。私どももしっかりと庁内で協議をさせていただきまして、すぐ対応出来るものについては対応させていただき、また必要に応じて今後の計画に盛り込んでいくという対応をさせていただきたいと思います。

暗くなっておりますので、ぜひ気をつけてお帰りになっていただければと思います。年内どこかでお会いする方もいらっしゃるかもしれませんが、来年までお会いできない方がほとんどだと思いますので、ぜひ良いお年をお迎えいただければと思います。来年もいろいろとお世話になります。よろしく願います。今日は本当にありがとうございました。